

国際協力人材育成プログラム

ソリューション・アプローチ

開発経済 (2年次生以上 春学期 金 5限)

英語で

世界の貧困や格差、途上国の環境や水、
気候変動による影響、深刻化する災害などの問題を学ぶ



マニラの洪水

グループワーク、ディスカッション、
ロールプレイで理解を深める

授業の内容 途上国の貧困や格差、環境や災害の現状、それらが相互に関連していることを説明し、解決に向けた日本の援助の事例や、日本でのこれまでの経験を解説します。例えば、水道が整備されていない途上国で、遠くの井戸や川まで水を汲みに行くのは主に女性の仕事です。危険を伴うだけでなく、女子は学校に行く時間が減るなど、ジェンダーや教育の問題に関連します。グループワークでこうした問題を議論してもらったほか、どうすれば改善されるのか政府、住民、援助機関などの役割に分かれロールプレイで理解を深めてもらいます。



担当教員：石渡 幹夫

現地調査の様子 ケニア



教員はこれまで国際協力機構（JICA）や世界銀行、国土交通省等にて、途上国や地方の現場では防災や復興、インフラプロジェクトを担当し、また本部では政策形成に携わってきました。どうすれば途上国は発展できるのか、世界から貧困や格差をなくせるのか。現場での経験を紹介しつつ、実務に基づく理論を紹介します。また、グループワークで途上国の課題を考えてもらいます。

日本の援助で建設された浄水場 パキスタン



石渡幹夫

国際協力機構国際協力専門員（防災・水資源管理）、東京大学大学院客員教授、世界水会議理事、日本水フォーラム理事。

開発援助について水資源、防災、復興、平和構築に関わる政策形成、プロジェクトの形成・管理、研究・調査・教育に従事している。これまで国土交通省にて防災やインフラ業務にかかわる他、世界銀行、アジア開発銀行にて防災、都市開発、水についてプロジェクトを担当してきた。東京大学大学院都市工学修了、博士号（東京大学・国際協力学）。